

## 社会形成に参画する資質・能力を確実に するため、子ども議会を開催すべき

町長 人材育成、教育の面では様々な手法がある



なか た ごうの すけ  
中田 豪之助 議員

### GIGAスクール構想 と子ども議会

**質問** 町でも生徒・児童に1人1台のタブレットが導入されました。その利用実績はいかがですか。また利用の仕方はどうでしょうか。

**教育長** 小学校で、1年生と2年生では週2回、3年生から6年生で週1回から週2回、3年生から6年生で週1回。全学年において調べ学習のほか、低学年においては基本操作、中学年においては文書作成、高学年においては動画撮影や児童会資料を作成します。中学校での国語で、全29時間中、各学年3時間、総合的な学習では、1学年で全15時間中11時間、3学年で、全7時間中4時間、数学では、特別支援学級において、全13時間全ての時間調べ学習、まとめ作成、学習教材として利用します。また、タブレットを各家庭に持ち帰ることにつきましては、各家庭で使用す

際のフィルタ機能も併せて検討しているところで。

**再質問** 2019年12月に文部科学大臣はGIGAスクール構想の実現について「忘れてはならないことは、ICT環境の整備は手段であり目的ではない」と言っています。

予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実にしていくためには、子ども議会が大変有効と考えます。行政が「子ども議会」あるいは模擬議会を開催するべきです。

**教育長** 主権者教育、あるいはふるさと学習の充実であるとか、地域課題の研究、これらが持続可能な地域づくりの中で大変重要です。その中で地域課題の研究について、地域の皆さんと学校と一緒に考えて考え、発表するという機会まで出てきました。子ども議会、いわゆる模擬議会といわれるような展開も一つの方法ですし、また、広く住民の方に、その地域課題研究に

ついでの発表を聞いていただく、こういった機会もまた一つの方法です。その方法は、コロナ禍を見据え、今後学校の方とも十分に協議をしながら進めていきたいと思えます。

**再質問** ふるさと学習、地域課題学習は、学校の先生はじめ、ゲストティーチャーとして加わった地域の大人、行政の方の御苦労があつて実現したと思います。地域の問題点、課題に気が付いた児童生徒はユニークな見方、鋭い切り口を持ち、貴重な力です。

ふるさと納税のお礼状を季節ごとに展開するという話もありました。7月7日から立秋の前までが暑中見舞いの季節だそうです。ぜひ、町長は、ふるさと返礼品の事を触れて、1回下川町に納税してくれた人たちに、映画も始まります、下川町では美味しいフルーツトマトも採れ始めますというような暑中見舞いを出してはどうでしょうか。その時に、小中学生皆さ

んこういうアイデア募集します、みたいなことは一挙両得で学校の学習になり、有効だと思えます。

**町長** 大変タイムリーな提案だと思えます。担当者もいろいろと苦労しながら知恵を絞っています。今提案いただいた内容等について、いろいろと学校とも打合せをしながら協議をしたいと思えます。

子ども議会、模擬議会など、各町でも数多く行っていますが、人材育成、教育という面では、様々な手法があると思えます。子供たちと交流し、持っているポテンシャルを引き出していくことを今後も進めたいですし、当然、子ども議会もその方策の一つに入っていると考えています。

